

文学館だより



令和 7 年 9 月 1 日
若山牧水記念文学館
TEL 0982 - 68 - 9511
文 貴 日 高 第113号

= 若山牧水生誕140年・若山牧水記念文学館開館20年Memorial Year =

短歌実作基礎講座 2回目集う 8. 19文学館にて

「作り方がわからない」「投稿する勇気がない」「介護が終わりボケるのがこわい」「何でも挑戦みんなで参加」などなど、それぞれの思いを胸に基礎講座が開講し、先月再会を喜び合いました。情景が目につく、発想がおもしろいなどの評価を受け、次への意欲につながったものと思います。2回目の投稿歌がこちらです。(抜粋)

断捨離で昔の家計簿ひもときぬ一年間を十分かけて
牧水の里に始めし歌の道 うれしいなあと一彦せんせ
つなみ！にげて！朝からニュースが呼びかける高台で午後海を眺めている
日めくりで朱色で「大暑」蟬の朝ゆうべのピクルス食べ頃になる
吾(あ)の布団夫(つま)の布団のあひだにて畳で寝(い)ぬる川の字の愛猫(つめ)



いかがですか。一生懸命さが伝わってきませんか。今回は辞書を引いて言葉を増やすこと、現代でも使われる歌言葉、仮名遣いの統一、倒置について学びました。次回の講座は11月11日(火)、今回と同じく緑あふれるここ、若山牧水記念文学館で行います。

伊藤一彦短歌実作講座 日向に集う 8. 20

「短歌実作基礎講座」の翌日は、伊藤先生と短歌を愛する「伊藤一彦短歌実作講座」を開催しました。こちらは「宮日芸芸」常連の方々、歌会に所属しているの方々、開講当初から受講している方々などベテランぞろいの講座です。今回は、句またがり、新しい題材が見られたことなどの評価がありました。

今回の投稿歌はこちらです。(抜粋) ◎▼は伊藤先生のコメントです

お見舞いは声聞きたくて電話する差額切手を使わず残し

◎「差額切手」に着目、新しい題材の歌である。

扇風機付きの服着て瓦葺きこれは重宝屋根はフライパンと

◎「扇風機付きの服」に着目、新しい題材の歌である。

▼ 結句は、「フライパンの屋根に」としたらどうだろうか。

えみ

ほほ笑に心の傷を隠しつつ一日が過ぐ一年が過ぐ

◎「一日が過ぐ一年が過ぐ」のリフレインが効果的である。

若き日に隠れて読みし恋の歌父の書棚の牧水歌集

▼「恋の歌父の書棚の」・・・漢字が続くので「恋のうた父の書棚の」とするとよい。

喜寿すぎたわが妻こわいもの知らず「私も短歌教室に行く」

◎「こわいもの知らず」・・・句またがり

◎「こわいもの知らず」・・・うまい表現である。

第15回牧水・短歌甲子園 8月9日(土)～10日(日)



今年も日向に暑い夏がやってきました。1都14県25校50チームから選ばれた12校12チームが日向市に集まりました。「動詞が4つは多すぎるのではないかな」とか「景色『も』ではなく、『は』とか『が』がよいのではないかな」といった文法に及ぶ質疑まで交わされ、1次リーグ初戦からレベルの高さに驚かされました。さらに、初出場校3校が団体戦上位3位を占め、新風を吹き込みました。

【団体戦】

優勝	〔宮崎県〕県立宮崎北高等学校	初出場
準優勝	〔愛知県〕名古屋高等学校	初出場
第3位	〔神奈川県〕県立光陵高等学校	出場4回目
第3位	〔東京都〕NHK学園高等学校（東京、宮崎混合）	初出場

【個人戦】

【牧水賞】…来場者の投票で決まります

父はなぜ手相占い信じずに足つぼだけは信じ続ける

〔福岡県〕県立八女高等学校 3年 熊谷 涼那 さん

【若山牧水記念文学館館長賞】

訛ってもサ行鋭く響くだろうアナウンサーが〈処理水〉と言う

〔東京都〕NHK学園高等学校 3年 重黒木俊陽 さん

【日向若山牧水顕彰会会長賞】

アルバムのばあちゃん見つめるじいちゃんの目は初恋のあの日のように

〔福岡県〕県立八女高等学校 3年 熊谷 涼那 さん

【俵 万智賞】

調停が終わった母に連れられてソーダ水には嘘めく緑

〔愛知県〕名古屋高等学校 1年 近藤 理仁 さん

【大口 玲子賞】

弁当を分け合っている屋上の留学生と留年生と

〔愛知県〕名古屋高等学校 1年 細田連太郎 さん

【笹 公人賞】

耳川にさらすところは水心さらさらまんざらでもない君へ

〔宮崎県〕尚学館高等部 2年 帯谷 到子 さん

【牧水・短歌甲子園実行委員会賞】

共学化した高校の男女比がサウジアラビアくらいだってさ

〔愛知県〕名古屋高等学校 1年 細田連太郎 さん

【牧水・短歌甲子園 OBOG 会みなど賞】

もし僕が空を自由に飛べたなら学校の窓から帰るのに

〔宮崎県〕県立延岡工業高等学校 2年 重黒木 侑 さん

毎年感じていることですが、高校生の着眼点の鋭さ、こだわった言葉選び、物おじしない堂々たる態度、どれもみなすばらしいの一言です。来年も楽しみにしています。

大会の様子はYouTube配信されています。高校生が詠む短歌、ディベート、審査員評をぜひご覧ください。

なお、今年は牧水生誕140年記念特別企画として、「牧水・短歌甲子園 OBOG 会みなど」×「アイドル歌会」も開催されました。

お知らせ

9月17日(水)は牧水の命日。坪谷では第75回牧水祭を開催します。前日9月16日(火)は、「若山牧水生誕140年記念第75回牧水祭特別企画」を開催します。

- 特別企画① 「牧水ゆかりの地めぐり」 8:30~14:00 ※定員に達しました
- 特別企画② 「記念シンポジウム」 14:30~17:00 【参加料】無料 【会場】日向市中央公民館
- 特別企画③ 「交流会(あくがれの会)」 18:00~20:00 【参加料】6,000円 【会場】ホテルベルフォート

○詳細は若山牧水ホームページをご覧ください。

○特別企画②、③については座席に余裕があります。参加されませんか。

牧水先生の一首

折に触れて出会う一首を紹介しています

酒ほしさまぎらはすとて庭に出でつ庭草をぬくこの庭草を

さけほしさ まぎらわすとて にわにいでつ にわくさをぬく このにわくさを

芹の葉の茂みがうへに登りゐてこれの小蟹はものたべてをり

せりのはの しげみがうえに のぼりいて これのこがには ものたべており

昭和3年9月17日、牧水は亡くなった。末期の水の代わりに酒で口を湿されながら静かに息を引き取ったという。この2首は歌集『黒松』に「最後の歌」として掲載されており、牧水没後に見つけ出されたものである。